

1. サイクリングコースの安全対策を問う

令和2年度神奈川県から移管されたサイクリングコースは通勤、通学、ウォーキングやランニング、犬の散歩など様々な方が利用している。

団塊の世代の方が後期高齢者となり益々健康志向が高まり増加傾向にある。

松並木があり箱根連山や日本一の富士山を眺めたり、清流酒匂川を見ながらの利用は最高の場所である。

しかしながら、コースそのものは狭く自転車と歩行者の接触事故が起り兼ねない状況にあり、自転車に接触された歩行者がなぜか怒鳴られるといった事例もある。

サイクリングコースのすべての利用者には一定のルールを設けるべきと考える。

基本的には歩行者最優先であるが、自転車の利用者やウォーキング、ランニング利用者も左側通行とするなど基本的なルール作りが必要である。

また、自転車のサイクリングコースの利用は日の出から日没までと聞いているが、はたして利用者にどの程度理解されているのか広報等で周知する必要がある。

移管後は、サイクリングコースの草刈業務が生じ今後とも経費は掛かり続けるが、事故等を防ぐためこの草刈業務の幅を舗装し、安全対策としてサイクリングコースを拡幅すべきと考えるが、町の見解は。

2. ごみ処理広域化の状況と今後の展望は

本町は、平成3年4月に一般廃棄物の共同処理を行う目的で、山北町と足柄西部清掃組合を設立し、平成4年10月に「あしがら西部環境センター」の建設に着手、平成7年4月から焼却施設と粗大ごみ処理施設として本稼働している。

稼働から26年が経過し、施設の老朽化が進み、整備費用は増加の一途をたどっている。

また、神奈川県は平成10年に『神奈川県ごみ処理広域化計画』を策定し、県西地域2市8町を一つのブロックとして位置付けている。

このような状況を踏まえ、足柄上地区では、ごみ処理の効率化と現有施設の老朽化に対応するため、先んじて、1市5町を枠組みとする「あしがら上地区資源循環型処理施設整備準備室」を平成31年4月に設置した。

その計画期間は令和2年度から16年度までの15年としているが、その検討内容、進捗状況について伺う。